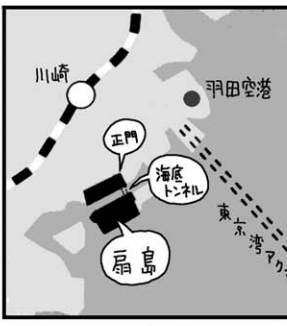


# ● JICA国内研修ゲンバ訪問記 VOL.35 省エネルギー @ 東京編

## OJAMA-SHIMASU



6月×日午後1時30分、JICA A研修員16人とその関係者一行を乗せたバスはJFEスチール(株) 東日本製鉄所の正門をくぐり、その先の海底トンネルを抜けて扇島という人工島へ。

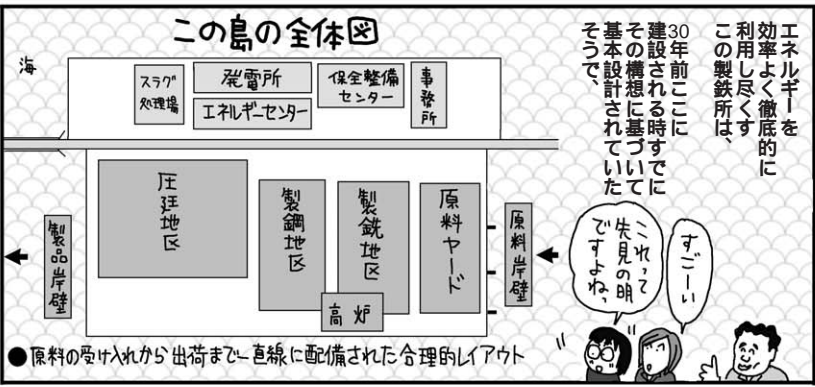


この島全体が敷地らしいです。広大な敷地をしばらく走って、広い敷地にはいたるところに「これほど」といふ言葉が飛び交っています。10数分後ようやく中央事務所に到着し、まずはこの会議室で講義。

この巨大製鉄所にはエネルギー部という部署があり、鉄の生産に使用するエネルギーと生産時に発生するエネルギーを一元管理することで無駄なく効率よく使っています。



製鉄所内で使用する電気はほとんどをこの自家発電で賄っています。余った電力を外販する時もあります。副生ガスの約半分は各工場の加熱などに使われ、もう約半分は自家発電所に送られ電気に変えて使っています。



環境に優しい製鉄所を目指し、今も進化中とのこと。最近では蒸気を減圧する際にそれを動力として取り出すシステムを開発しました！

午後2時半、ヘルメットと作業着を身に付けてバスに乗り、原料の石炭や鉄鉱石が山のように積まれた原料ヤードへ。

構内見学へ。構内は約15%が緑地で、約80万本の木が生えこまわして緑の製鉄所と呼ばれています。

この山は幅4メートル、長さは一キロありまして、港に運ばれてきた原料がここに積み重ねられています。この高炉は、この高炉は使用済みのプラスチックを燃料にできるシステムを世界で初めて実現しています。

もう一つ立ち上がる水蒸気とこの音の中、ベルトコンベヤー上の真っ赤に熱せられた巨大な鉄の塊が冷却と圧延と成形を繰り返して一枚の板になっていく様子は圧巻！

反対にとても静かなエネルギーセンター。ここでこの島内すべてのエネルギーの動きを24時間体制で管理しています。はい、品質管理は各工程で行っています。

今日の感想。高炉の原料に使用済みプラスチックを使うシステムがすごいと思いましたが、自国でもぜひ取り入れたいです。工場内に労働者の姿がほとんど見えないのが驚きました。構内に緑がいっぱいなのが印象的でした。エネルギーの活用が徹底的にされています。さらなる進化を期待します！！

今回はJICA東京(財)省エネルギーセンターが協力して行う「省エネルギー」研修を紹介。省エネルギーとは、無駄なエネルギーを使わず、かつ技術的改善によってエネルギーの利用効率を高めること。地球温暖化防止やエネルギー安定確保のために、世界共通の重要課題の一つだ。海外にエネルギー源を依存する日本は、1970年代の石油危機を機に社会全体がエネルギー効率改善を図り、今や世界最高水準の省エネ化を達成。国際的にも注目されるその経験・技術を、世界の課題解決に役立てる方針だ。

この研修では、開発途上国の省エネ推進機関などに所属する行政官や技師が、日本の省エネ政策・技術を学び、自国の省エネ推進の政策改善案を作成する。今年度は、ブラジル、グアテマラ、インド、インドネシア、イラク、カザフスタン、ケニア、メキシコ、フィリピン、セルビア、スリランカ、ウクライナの12カ国から16人が参加し、6~7月に行われた。日本の産業・民生部門の優秀事例としてJFEスチール株式会社が東日本製鉄所での視察取材。徹底した省エネ化・環境保全を実現するその努力と技術に、研修員たちも多くのヒントを得たようだった。